

光葉同窓会メールマガジン

<2025 年 11 月号>

221 号 2025.11.04 配信

今年も、シクラメンやツワブキの花で、ようやく秋の訪れを感じていますが、冬があっという間に迫ってきそうです。

11 月は、恒例の秋桜祭に光葉同窓会も参加します。ホームカミングデーもあります。光葉博物館の秋の特別展も開催されていますので、是非この機会に学園にいらして、母校の色づく紅葉を眺め、季節の移ろいを感じてください。(常任委員 浅野千津子)



■同窓会だより

◇生涯学習報告 《山崎日出男理事長講演会》 10 月 4 日(土)

「紛争と平和構築」「トランプ就任以降の動き」

講師に本学理事長の山崎日出男氏をお迎えし、第 2 回講演会を開催、32 名が参加しました。ボスニア・ヘルツェゴビナの民族構成、紛争の経緯、紛争後の政治体系、国際監視組織や日本の支援の状況など、紛争の根幹にかかわるご説明がありました。また 2025 年 1 月にトランプ氏が二度目のアメリカ大統領に就任してからの世界情勢についても、お話が及びました。参加者からは「世界情勢について理解を深めることができた」「タイムリーで興味深い話であった」「報道からは伝わらないことが理解できた」「平和構築には女性教育及び活躍が必要であることを知った」などが挙がり、大変有意義な時間を過ごすことができました。

◇2025 年度第 33 回秋桜祭のご案内

【開催日時】11 月 8 日(土)・9 日(日) 10 時～15 時 30 分

【場 所】3 号館 1 階 1S02・1S03 教室

光葉同窓会は、同窓会支部から寄せられた各地の名品、手作り品の販売、支部・同窓生有志による出店バザー、子どもコーナー、同窓生で登山家の田部井淳子さんの展示もあります。ぜひお立ち寄りください。

◇生涯学習 《空手の実演と講習会》のご案内

～準備運動で体幹を働かせ、空手の動きを体験してみよう。ストレス解消にもなりますよ～

【日 時】：2025 年 12 月 6 日(土) 13:00～14:30 (受付 12:30～)

【場 所】：人見記念講堂 3 階 楽屋 G・H 【定 員】：30 名(先着順)

【内 容】：空手とは、演武(実演)、参加してみよう！(年齢不問)

【対象者】：同窓会会員とその家族(小学生以上同伴可)、在学生、昭和女子大大学教職員

【講 師】：上地流空手道師範 5 段 小藺江 奏波(2018 年 歴文卒)

【参加費】：無料(団体保険加入済み) 【申込〆切】：11 月 28 日(金)

【申込方法】：FAX または Mail 申し込み先：光葉同窓会事務局

FAX：03-3411-4066 E-mail：dousoukai@swu.ac.jp

件名に「生涯学習空手」、本文に①氏名 ②卒年 ③卒学科 ④連絡先(日中連絡可能な携帯番号)を記載の上、光葉同窓会事務局にお申込みください。

申込み後、受付完了の返信を同窓会事務局からお送りします。

【問合わせ先】昭和女子大学光葉同窓会事務局 TEL：03-3421-7713

※動きやすい服装(ズボン・運動靴)でご参加ください。



◇支部会の開催

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| ・11月1日（土）長崎県支部会 | ・11月17日（月）福岡県支部会 |
| ・11月9日（日）宮崎県支部会 | ・11月19日（水）ソウル支部会 |
| ・11月16日（日）長野県支部会/青森県支部会 | ・11月29日（土）滋賀京都合同支部会 |
| | ・11月30日（日）愛媛県支部会 |

■学園だより

◇ 社会福祉法人共生会 SHOWA — 遺贈寄付を活用し、女性や子どもの支援を目的とする事業を募集 —
選考のうえ1団体につき100万円を上限とする助成を行います。

【対 象】 国内で活動する非営利団体、企業

【応募受付期間】 2025年10月20日～12月15日

※募集要項、申請書等詳細は、共生会 SHOWA ホームページ <https://kshowa.or.jp> でご確認ください。

■広げよう光の葉



折茂 恵さん 1982年 短大 家政学科卒

「私と七宝焼」

昭和を卒業後、私は普通に就職して結婚、出産、子育てをしていました。そんな時に七宝焼と出会い、すぐに強く自分で作りたいと思い、七宝焼の教室に通い始めました。それが33歳の時です。子育て真っ最中でしたが、私の息抜きになりました。自分が作った物が、身につけられる作品になるという達成感は、心が満たされるものでした。

七宝焼を始めてから14年目のこと、七宝に伝統工芸の道があることを知りました。伝統工芸に向けての作品作りは困難もありましたが、挑戦することは自分の成長に繋がりました。しかし、これからもっと制作するぞという時に、親の介護が始まりました。私の両親と主人の母の世話が重なった時もあり、家族の洗濯物をしている時には、これで私の人生は終わってしまうのだと思っていました。その間、七宝焼の活動はほとんど出来ず、今度はコロナ禍になり、なかなか再開出来ずにいましたが、時を経てこうして今は、作家活動をする事が出来ています。

簡単に七宝が出来上がるまでの工程をお伝えいたします。

【素地作り】・デザインを考え、紙の上で色を決めます。

- ・作品の胎（たい＝七宝焼の土台や芯の部分の金属）を考え、注文します。
- ・釉薬の色を決め、試しに焼いて色を確認めます。

【植線】・銅胎（どうたい＝七宝を施す金属の基材）に下地を施し、銀線を立てていきます。

【焼成】・銀線をデザイン通りに立て終わったら、焼成します。

【施釉】・釉薬をおいては焼成することを、繰り返します。（最低でも8回）

【仕上げ】・最後に研ぎあげます。研ぎあげた作品には覆輪（ふくりん＝作品の縁を補強するために覆う金属）を付けて仕上がりとなります。



根気と手間のかかる緻密な銀線が織りなす世界を作り上げてきましたが、時には失敗もあり人間関係でもやめようとしたことも何度もありました。しかし、今までの経験と意思が無駄になってしまうと思い、続けてこられました。これらの経験は、私の人生に、又生きる上でとても大切でした。七宝焼を通して技術的な成長だけでなく、人との付き合いでも多くのことを学びました。そして何事も続けていれば、自分の人生は豊かになっていくものだと思います。

ただ今、群馬県支部に携わって同窓生と支部会を盛り上げようと活動しています。皆様のこれからの人生も豊かになられますよう、お祈り申し上げます。【End】